

韓国語訳された『斜陽』の問題点

——文化差異性をめぐって——

金 相 二

- 一 はじめに
- 二 翻訳というのは
- 三 韓国の翻訳の事情
- 四 太宰治の翻訳本
- 五 翻訳された『斜陽』の問題点
 - (一) 省略された場合
 - (二) 意訳された場合
 - (三) 誤訳された場合
 - (四) 音訳された場合
- 六 おわりに

韓国で日本文学の翻訳が本格的に出版されたのは一九六〇年代からである。「日本文学の韓国語翻訳現況（一九四五—一九九七）に関する調査」によると太宰治の翻訳回数は三十六回で十九位である。翻訳された作品の中で、『斜陽』が十回で一番多い。頻繁に訳された代わりに、いくつかの問題点が浮かび上がる。問題点として挙げられるのは、翻訳者によって〈省略〉、〈意訳〉、〈誤訳〉され、また、〈音訳〉されたという四点が考えられる。〈省略〉は訳者が本来あるべき部分を削除したもので、原文を毀損してしまう。〈意訳〉は訳者が原文の一語一語にこだわらず、その文脈を訳者なりに解釈して訳す。従って、この場合は原文と意味が少し異なる可能性が高い。〈誤訳〉は原文の意味と全く違って、本来の意味を失ってしまう。〈音訳〉は日本語の発音のそのままで訳す場合である。〈音訳〉だけでは読者は、理解できないという点が挙げられる。このように翻訳する時には問題点が生ずる。これらの問題の内に、特に文化差異によって発生する問題を中心に考察したい。

一 はじめに——問題提起

我々は母国語だけでは生きていけない。国際交流が活発に行われている国際社会に住んでいる。従って、その時代に合わせて翻訳の役割も段々と大きくなってきた。翻訳という問題は、最近提起されてきたものではなく、大変なじみのある重要な問題として一般的に認識されている。翻訳というのは、ただ外国語を自国語に訳す作業ではなく、人間共通の言語手段であると言っても過言ではない。しかし、このように翻訳の必要性を感じている一方、韓国において翻訳は、専門的に行われていなかったのである。つまり、日本文学の作品の翻訳を見ても、日本文学を専攻した人ではなく、日本語ができる人であれば翻訳が行われた。言い換えれば、文化的なことを認識せずに訳す場合が多かった。そのくらい翻訳における専門性が薄かったと言える。

韓国と日本は文化的に似ているようでありながら、違ふところが多い。従って、文化の異質性によって起こる翻訳の問題が考えられる。

本稿では、五人による『斜陽』の訳文で、日本語を韓国語に訳す時の問題点を取り上げる。それは翻訳者によって〈省略〉、〈意訳〉、〈誤訳〉され、また、〈音訳〉された場合が考えられる。特に両国の文化的な差によって発生する

問題を中心に考察する。それから、その問題の解決策を立てて、これから翻訳する人々によって正しい翻訳が活発に行われるのを期待したい。

二 翻訳というのは

翻訳というのは、ある国の言葉で表現された文章の内容を、他の国語になおすことを意味する。翻訳の元になるのは、正確な読み取りである。よい翻訳にすることで一番重要なことは、原本の内容を正確に把握して、忠実に読者に伝えることである。李政洙氏は「日本語」と思う』の韓国語翻訳に関する研究^①で次のように述べられる。

翻訳というのは、結局読者のためなので、翻訳者は読者がどのような翻訳文を読んでも、原文が持っている意味を最大に感じられるように、配慮しなければならぬ。

しかし、外国語を母国語で訳すには限界がある。たとえば、韓国語に対応する言葉がない日本語を訳す場合が考えられる。すなわち、文化の差によって生ずる語彙の問題が考えられる。崔清子氏は「翻訳で発生する難訳性に対する研究——特に領域を中心に——」^②で味覚と色彩、身体的な苦痛に関する語彙においては、韓国語が英語より細分化されていると言及した。従って、類似語で翻訳する場合、意

味が半減される可能性が高いことを述べた。

このように文化的な背景、言語習慣によって語彙は細分化されている。語彙の細分化は、その言語の優秀性を言うのではなく、文化的な差の表現差である。従って、翻訳は文化の差による言語の細分化を念頭に置きながら訳すべきである。

三 韓国の翻訳の事情

韓国で翻訳が始まったのはいつからであろう。その時期は朝鮮時代からだと言える。その当時は中国の漢文を翻訳したのである。しかし、本格的に外国文学などの翻訳が行われたのは、朝鮮戦争以後の一九六〇年代からである。韓国の翻訳事情について許昊氏は「韓国における三島文学——その研究事情と翻訳事情——」で次のように述べている。

韓国で翻訳文学が本格的に出版されたのは一九六〇年代からである。五〇年代には朝鮮戦争が起こり、戦争が終わってからも数年間は混沌たる状態が続いたので、やっと六〇年代に入ってから出版界が動き出したのである。(略)特に六〇年代から八〇年代半ばにかけては、殆どが海賊版であるから、人の翻訳をそのまま盗用し、訳者不明のまま出版されたものもある。

しかし一九八〇年代後半から、海外のものに対しても著作権保護の取り締まりが厳しくなり、韓国の出版社も日本の原作者と正式に出版契約を結ぶようになった。その結果、出版社の方も、いい加減な翻訳者ではなく、正式に日本へ留学して日本文学を勉強した人たちに仕事を任せるようになった。最近ではレベルの高い翻訳版が出されるようになった。(傍線部は引用者による。以下同じ。)

このように韓国の最初の翻訳は、日本文学を専攻してない人々によって訳されたので、質的にも低かった。しかし、一九八七年に UCC (Universal Copyright Convention : 国際著作権条約) 協約に加入した以後には海賊版がなくなった。近年の「日本文学の韓国語翻訳現況に関する調査」によると次のようである。

順位	作家と (翻訳回数)		
1	三浦 綾子 (275)	11	梶山 季之 (46)
2	川端 康成 (201)	12	石川 達三 (46)
3	芥川龍之介 (90)	13	夏目 漱石 (45)
4	三島由紀夫 (76)	14	曾野 綾子 (45)
5	井上 靖 (72)	15	石坂洋次郎 (41)
6	森村 誠一 (65)	16	山崎 豊子 (38)
7	大江健三郎 (64)	17	谷崎潤一郎 (37)
8	松本 清張 (56)	18	五味 純平 (37)
9	村上 春樹 (51)	19	太宰 治 (36)
10	遠藤 周作 (47)	20	石原慎太郎 (32)

作家の順番を見ると、三浦綾子二百七十五回、川端康成二百一回、芥川龍之介九十回、三島由紀夫七十六回などである。統計を見ると、『氷点』の三浦綾子が一番よく韓国で訳され、読まれた作家である。韓国においての日本文学の翻訳は、出版界の商業性に執着して、読者に人気がある作家の作品は多く訳された。しかし、最近は翻訳の分野に関心が深まって、専門的な翻訳が行われるようになってきた。

四 太宰治の翻訳本

韓国での太宰治の翻訳回数は、三十六回で十九位である。太宰治の作品はいつ韓国に導入され、活発に翻訳されたの

であろうか。また太宰治の作品が韓国で何年度に誰によって、どの出版社から出版されたのであろうか。韓国で一九四五年以後から一九九七年まで、韓国で翻訳された日本文学作品を目録化した調査、前掲の「日本文学の韓国語翻訳現況に関する調査」によると、太宰治の翻訳現況は次のようである。

一九六〇年代

・『人間失格』、バンキファン、新太陽社、一九六一

・『斜陽』『日本戦後問題作品集』、シンドムン、新丘文化社、一九六三

・『桜桃』『世界短編文学全集（東洋篇）』、ジョヨンヒョン、啓蒙社、一九六六

・『ヴィヨンの妻』『日本代表作家百人集4』、金ヨンゼ、希望出版社、一九六六

・『ヴィヨンの妻』『日本短編文学全集8』、金ヨンゼ、新太陽社、一九六九

・『斜陽』『（カラー版）世界の文学大全集8』、関丙山、ドンファ出版ゴンシャ、一九七〇

一九七〇年代

・『斜陽』『（カラー版）世界の文学大全集8』、関丙山、ドンファ出版ゴンシャ、一九七〇

・『斜陽』、ミンシュシキ、出版社未詳、一九七〇

・「斜陽」『羅生門／斜陽——同和文庫』、チエテウン、

ドンファ出版ゴンシャ、一九七二

・「ヴィヨンの妻」『現代日本代表文学全集6』、グジャウ

ン、平和出版社、一九七三

・「思ひ出」『現代日本代表文学全集6』、グジャウン、平

和出版社、一九七三

・「魚服記」『現代日本代表文学全集6』、グジャウン、平

和出版社、一九七三

・「願」『現代日本代表文学全集6』、グジャウン、平和出

版社、一九七三

・「胡蝶」『現代日本代表文学全集6』、グジャウン、平和

出版社、一九七三

・「東京八景」『現代日本代表文学全集6』、グジャウン、

平和出版社、一九七三

・「桜桃」『日本名短編選集』、シンシュチュオル、ギョンウオ

ンカク、一九七四

・「桜桃」『世界代表短編文学全集9』、ジヨオンヒョン、

サムヒ社、一九七六

一九八〇年代

・「人間失格」、朴ホングン、シムジ、一九八二

・「妻の役割」『世界文学精選集4』、訳者未詳、スジン出

版社、一九八三

・「斜陽」『三星版世界文学全集49』、權逸松、三星出版社、

一九八四

・「斜陽」『この世の光と空氣の中では』、イムヒチョル、

シムジ、一九八五

・「道化の華」『この世の光と空氣の中では』、イムヒチョ

ル、シムジ、一九八五

・「思ひ出」『この世の光と空氣の中では』、イムヒチョル、

シムジ、一九八五

・「地球図」『この世の光と空氣の中では』、イムヒチョル、

シムジ、一九八五

一九九〇年代

・「斜陽」『三星世界文学EVER BOOK』金カンシキ、

三星出版社、一九九三

・「太宰治の帰郷」、朴ヘスン、ジンファ、一九九三

・「生まれてすみません」、イムセヒ、クムトル、一九九三

・「人間失格」、李チャンジョン、シムジ、一九九四

・「男女同権」『人間失格』、李チャンジョン、シムジ、一

九九四

・「葉」『人間失格』李チャンジョン、シムジ、一九九四

・「斜陽」李チャンジョン、シムジ、一九九四

・『斜陽』、宋肅庚、ウル文化社、一九九五

・『人間失格』『斜陽』、宋肅庚、ウル文化社、一九九五

・『桜桃』『日本代表短編選1』（全3巻）、金ジョンミ他、高麗院、一九九六

・『思ひ出』ファンヨチャン、『李ムンヨル世界名作散策8』三星出版社、一九九六

・『晩年』、ユシクザ、ハンリン新書、一九九六

・『トカトントン』『李ムンヨル世界名作散策9』ミョンジンシユク他、三星出版社、一九九七

以上韓国での太宰治の翻訳現状（一九四五—一九九七）を見た。最初の翻訳本は一九六一年、バンキファンによる『人間失格』であった。従って、太宰治の作品は五十年代に韓国に入ってきたと考えられる。太宰治の翻訳は一九六〇年代に五回、一九七〇年に十一回、一九八〇年代に七回、一九九〇年代に十三回行われた。その中で一番多かったのは、『斜陽』で九回訳された。次は『人間失格』が四回、『桜桃』が四回、『ヴィヨンの妻』が三回、『思ひ出』が三回訳されたのが見られた。この調査には出ていないが、一九九五年に熊進出版社から『人間失格』と『斜陽』が許昊氏によって翻訳された。つまり、実際に『斜陽』は十回、『人間失格』は五回になるのである。太宰治の翻訳事情は、

韓国の日本語の教育と、太宰治の研究の影響にも、関わりがあると思われる。韓国では解放以後、一九五〇年から一九六〇年までは、反日政策であったが、一九六一年には、韓国外国語大学に日本語科が設置され、一九六五年には、韓・日両国の国交成立で、一九七三年には、日本語が第二外国語の選択科目として認定されたのである。従って、韓国での日本語の関心が深まっていた。その影響で翻訳本も七〇年代には頻繁に訳され、一九八〇年代からは、韓国での太宰治の研究も、本格的に活発に行われるようになったと考えられる。

五 翻訳された『斜陽』の問題点

日本語と韓国語は漢字を使い、また語順が同じなので、訳す時は、他の外国語より簡単であると考えてしまう傾向がある。だが、翻訳は単に、外国語を対応する自国語に訳すことで終わるのではない。言語的な側面だけではなく、訳者または、その文化の差によって、問題がいくつか発生するのである。韓国で一番多く翻訳された『斜陽』を取り上げて問題を考えてみる。『斜陽』は一九六三年から全部で十回訳された。しかし、訳された『斜陽』は絶版になったり、出版社が無くなった、という様々な理由によって、五種類の『斜陽』だけを手に入れることができた。それは

一九七〇年の関内山氏^⑥、一九八四年の權逸松氏^⑦、一九八五年のイムヒチヨル氏^⑧、一九九五年の宋肅庚氏^⑨、許昊氏^⑩によって訳された翻訳本である。五人の訳者によって訳された翻訳本と、『斜陽^⑪』の原文〈決定版『太宰治全集』第十巻、筑摩書房、一九九九年〉を比較して問題を考えてみる。

(一) 省略された場合

省略は訳者が本来あるべき部分を削除し、訳した場合である。〈本文は四角で囲み、章は■に示す。〉(一)内は五人の翻訳を日本語に改めたものである。××は省略された部分を示す。また▼は筆者による訳である。以下同じ。〈

・三疊

毎朝、規則正しく起床なさつて洗面所へいらして、

それからお風呂場の三疊で【五】

・関内山氏の場合

매일 아침 규칙적으로 일어나 세수를 하고, ×× 목욕탕 결방 ×× 에서

(毎朝、規則的に起きて洗顔をなさつて、×× お風呂

場横の部屋 ×× で)

・權逸松氏の場合

매일 아침 규칙적으로 일어나 세수를 하고 ×× 목욕탕 결방 ×× 에서

(毎朝、規則的に起きて洗顔をなさつて、×× お風呂場横の部屋 ×× で)

・イムヒチヨル氏の場合

매일 아침 규칙적으로 일어나서 세수를 하고, ×× 욕실의 결방 ×× 에서

(毎朝、規則的に起きて洗顔をなさつて、浴室横の部屋 ×× で)

・宋肅庚氏の場合

매일 아침 규칙적으로 기상하여 세면소에

들어가시고, 그리고 욕실 결의 다다미「タタミ」세장앞 방에서

(毎朝、規則正しく起床なさると洗面所へいらして、それからお浴室横の「タタミ」三枚敷きの部屋で)

・許昊氏の場合

매일 아침 규칙적으로 기상하여 세수를 하신다음, ×× 욕실 옆의 작은 방에서

(毎朝、規則正しく起床して洗顔なさった後、浴室横の小さい部屋で)

▼매일 아침 규칙적으로 기상해서 세면소에

들어가시고 그리고 목욕탕의 3조 (조는다다미 《침을
실로 단단히 하여 마루에 골초로 짠 표를 만들어 집의
마루위에 까는 것》의 크기로 방의 크기를 세는 말 1
조와 평판 1. 65평방미터에 해당—역주)에서

(毎朝、規則的に起床なさって洗面所へいらして、そ
れからお風呂場の三畳(畳「ジョウ」とは畳「タタミ」
《藁を糸でさしかためた床に藁で編んだ表をつけ、家
の床の上に敷くもの。》の大きさを部屋の広さを数え
る言葉。一畳は平均では約一・六五平方メートルにあ
たる—訳注)で)

関丙山氏、權逸松氏、イムヒチョル氏は原文の「三疊」
の部分「결방」에서 (横の部屋)と訳し、また
許昊氏は「옆의 작은 방에서 (横の小さい部屋)」と訳し
ている。宋肅庚氏だけが「결의 다다미」[タタミ] 세 장. 같이
방에서横の「타타미」三枚敷きの部屋で」と訳し、「疊」
の部分「다다미」[タタミ]と音訳している。なぜ関丙
山氏、權逸松氏、イムヒチョル氏は本文の「三疊」の部分
を省略し、また訳文を「결방」에서 (横の部屋「
X」で)「で全く同じ訳をしたのだろうか。この場合にお
いては、訳者は「疊」という日本文化を訳さなければなら
なかっただろう。しかし、日本文化的な翻訳の基準がない

状況である。言い換えれば、兩國の文化差による、翻訳の
方法などが提示されていなかった。従って、權逸松氏、イ
ムヒチョル氏は、前訳された関丙山氏の訳文をそのまま引
きついで、訳した可能性が高い。宋肅庚氏は音訳したが、
「疊」が韓国で外来語の「다다미」[タタミ]として理解さ
れていたためだと考えられる。『ハンゲル大辞典』には次
のように説明されている。

다다미 .. n 일본지 돗자리, 속에 침을 두 겹씩 넣고
위에는 돗자리를 대어 단단히 꿰맨 것으로, 마루방에
감, 돗침요

(畳…n日本式敷物、中に藁を厚く入れて上にむしろ
を付けて固く縫ったものとして床の部屋に敷く。)

このように〈畳〉は音訳だけでも、韓国では意味を通じ
る。しかし、韓国人は〈畳〉ではなく、〈オンドル〉の生
活をしてきたので、〈畳〉については、具体的には知らな
いと思われる。『日韓文化論』では

韓国の家屋と日本の家屋の根本的な違いは、オンドル
と畳といえましょう。韓国は日本の本州と同じ緯度に
位置していますが、冬はきびしい風が吹くので、越冬
に重点をおいております。ここで発達したのがオンド
ルです。日本の場合は湿気が多く、地面に直に床を置
くより、地面と床の間を空けて風通しをよくする必要

がありました。したがって日本の家屋は床の高い構造となっており、これに畳を用いるのがもっとも経済的で有利だといえます。オンドルパン（オンドル室）は床下から熱を発散するために、床は高いよりは低いほうが有利です。そして窓も少ないほうが有利です。したがってオンドルパンは扉が少なく、室内が暗いようです。一方、日本の部屋はオンドルシハンクパンよりは床が高く、また面積も広いのです。

と韓国と日本の住生活の差異は〈畳〉と〈オンドル〉であると述べている。このように韓国と日本の住生活の文化が違うのである。よって、〈畳〉というものについて十分な説明がある。訳者が〈畳〉の部分削除せず、簡単な注を入れると韓国の読者は、〈畳〉を知ると共に、〈オンドルシハンクパン（オンドル式の韓国部屋）〉と比較しながら、お互いの文化を理解するようになると思われる。

・炬燵

やはり、その洋画家のアパートで、洋画家の相手をさせられて、炬燵にはひつて朝から酒を飲み、

【七】

・宋肅庚氏の場合

역시 그 서양 화가의 아파트에서 화가의 술 동무가 되어, ~~××~~ 아침부터 술을 마시고

(やはり、その西洋画家のアパートで、画家のお酒の相手になり、~~××~~ 朝から酒を飲み)

・関丙山氏の場合

역시 그 양화가의 아파트에서 고다쓰(달개가 달린 일본식 화로)를 쪼면서

(やはり、その洋画家のアパートで、「コタツ」(蓋が付いた日本式の火鉢)に当たりながら、)

・權逸松氏の場合

역시 그 양화가의 아파트에서 그와 코타쓰(일본식 화로—~~역구~~)를 쪼면서 아침나절부터 술을 마시며

(やはり、その洋画家のアパートで、彼と「コタツ」(日本式の火鉢—訳注)に当たりながら午前中から酒を飲み

・イムヒ Chol 氏の場合

그때도 그 양화가의 아파트에서 양화가의 상대가 되어고다쓰 (일본 고유의 요 밑에 묻는 화로) 에

매달려서 아침부터 술을 마시고、

(その時もその洋画家のアパートで、洋画家の相手になり、「コタツ」(日本固有の布団の下に埋ける火鉢)に

へばりついて朝から酒を飲み、)

・許吳氏の場合

역시 그 서양화가의 아파트에서 서양화가를 상대로
고타츠(역자주: 이불 속에 넣은 화로)를 사이에 두고
아침부터 술을 마시며、

(やはり、その西洋画家のアパートで、洋画家の相手で
「コタツ」(訳者注: 布団の中に入れる火鉢)を間に置いて
朝から酒を飲み、)

▼역시 그 양화가의 아파트에서 양화가의 상대가 되어
코타츠(상위에 이불을 덮어 그 속에 설치한 화로로
따뜻함을 얻는것—역주)에 들어가 아침부터 술을
마시고

(やはり、その洋画家のアパートで、洋画家の相手になり、
「コタツ」(机の上に布団をかけ、その中に設けた炉で暖をとるもの。——訳注)にはいつて朝から酒を飲み)
宋肅庚氏の場合は、本文の「炬燵」の部分を読していない。どうして「炬燵」のところが削除したのか。この場合も考えられるのは、韓国と日本との文化の差によって、この部分は訳しにくかったと思われる。「炬燵」は韓国にはないものである。韓国でも昔は、火鉢というものがあって使われたが、ガスとか電気ストーブなどの色々な暖房器具の普及で、火鉢を利用する必要性がなくなった。一方、日

本では昔の形ではないが、今までも、暖房器具として使用している。「炬燵」は韓国にはないので訳す時、説明が要求される。他の訳者は「炬燵」を音訳して注をつけることで、読者が理解できるようにした。しかし、他の訳者の「炬燵」の注では、説明が足りないと考えられる。「炬燵」を見たことも使ったこともない韓国の読者としては、なかなか理解しにくい。「炬燵」は『日本国語大辞典』^①などを参考にして「机の上に布団をかけ、その中に設けた炉で暖をとるもの。」といったような説明が必要となる部分なのである。訳者がこの部分を省略すると、読者が日本文化に触れる機会を奪われる恐れがある。

つまり、文化的な面において訳す場合は、原文の内容とほぼ関係がないと訳者が判断した場合、文化的な面における訳を疎かにしてしまう傾向がある。文化的な部分を訳することこそ、異文化理解の鍵があるのではないかと考えられる。

(二) 意識された場合

意識は訳者が原文の一語一語にこだわらず、意味に重点をおいて、翻訳することをいう。

・革命

私は確信したい。人間は戀と革命のために生まれてきたのだ。【五】

・関丙山氏の場合

나는 확신하고 싶다. 사람은 사랑과 생활의 발전을 위해서 태어났다.

(私は確信したい。人は恋と生活の発展のために生まれた。)

・權逸松氏の場合

나는 믿고 싶다. 인간은 사랑과 혁명을 위해서 태어났다고(이 새로운 도덕의 완성은 《사양》의 제1 주제다—역주)

(私は信じたい。人間は恋と革命のために生まれたと。

(この新しい道德の完成は《斜陽》の第一のテーマである。——訳注)

・イムヒチヨル氏の場合

나는 확신하고 싶다. 인간은 사랑과 혁명을 위해서 태어난 것이라는 것을

(私は確信したい。人間は恋と革命のために生まれたのを。)

・宋肅庚氏の場合

나는 확신하고 싶다. 인간은 혁명과 사랑을 위해서 세상에 태어난 것이라는 것을

(私は確信したい。人間は革命と恋のために世に生まれて来たのを。)

・許吳氏の場合

나는 확신한다. 인간은 사랑과 혁명을 위하여 살아왔다고.

(私は確信する。人間は恋と革命のために生きて来たのだ。)

▼나는 확신하고 싶다. 인간은 사랑과 혁명을 위해서 태어난 것이다.

(私は確信したい。人間は恋と革命のために生まれたのだ。)

関丙山氏は、原文の「革命」を「생활의 발전(生活の発展)」と訳している。なぜ関丙山氏は、「革命」を「생활의 발전(生活の発展)」と訳したのか。これは関丙山氏が『斜陽』の中で「革命」の意味を、自分なりに解釈し、その言葉が持っている意味にこだわらず、訳したと思われる。その理由としては二つが考えられる。

その一つは、『斜陽』の時代的背景である。この小説の背景は、「私が、東京の西片町のお家を捨て、伊豆のこの、

ちよつと支那ふうの山莊に引越して來たのは、日本が無條件降伏をしたとの、十二月のはじめであつた。【一】のところから分かるように、戦争の前後なのである。この時期の日本は経済的に生活が窮乏で、社会的においても不安定であつた。韓国の場合も、植民地や一九四五年の解放後、一九四八年には大韓民国政府樹立の前の状況であつた。経済的な状況としては、両国は殆ど同じであつた。そのため、日本と韓国の当時の経済的な貧しさを顧慮し、両国の「革命」は「生活の發展」ではないかと考え、訳したと思われる。

もう一つ考えられるのは、訳された韓国のその当時の時代的な背景である。閔丙山氏が『斜陽』を訳したのは、一九七〇年である。この時期の韓国は、セマウル運動という社会の發展運動が行われた。つまり、一九七〇年四月二十二日以後、朴正熙の大統領が地方長官會議で、最初に提唱したセマウル運動（勤勉・自助・協同精神を基とする地域社会の發展運動）との関わりが考えられる。その運動の新聞記事『東亜日報』は次のように載せている。

・防衛産業研究ト록 朴大統領談話

박정희 대통령은 二十三日、평강군수단에 대해 国防 당국과 협조해서 방위산업분야에 대한 연구에 힘쓰라고 지시했다. 内閣기획조정실이 마련한 제 二 차 경제개발 五개년 계획 三차 연도 평가결과를 보고

받은 자리에서 박대통령은 이렇게 지시하고 어려운 조건을 극복하고 발전하고 있는 「벨기에」 나 「네덜란드」 같은 나라의 예를 충분히 연구하여 이를 우리 경제개발에 도움이 될 수 있도록 하라고 아울러 지시했다.

（・防衛産業研究するように朴大統領命す

朴正熙大統領は二十三日、評価教授団に対して国防当局と協力して防衛産業分野に対する研究に力を入れるよう指示した。内閣企画調整室が整えた第二次經濟開發五改選計画三年度評価結果の報告をうけてその席で朴大統領はこのように指示して難しい条件を克服し、發展している「ベルギー」と「オランダ」のような国の例を充分に研究してこれをわが國經濟開發に役に立つようにせよと同時に指示した。）

このようにセマウル運動の影響で当時の〈革命〉といえは國に經濟的發展として認識されて受けられていた。この状況に合わせて、閔丙山氏は、韓国の当時の時代的背景を反映し、「革命」を「생활의 발전」（生活の發展）と訳したのではないかと考えられる。

しかし、『斜陽』の中の〈革命〉は、閔丙山氏が訳した「생활의 발전」（生活の發展）との意味と異なると考えられる。かず子による〈革命〉の意味は、次のところに見

られる。

革命は、いつたい、どこで行はれてゐるのでせう。すくなくとも、私たちの身のまはりに於いては、古い道徳はやつぱりそのまま、みちんも變らず、私たちの行く手をさへぎつてゐます。海の表面の波は何やら騒いでゐても、その底の海水は、革命どころか、みじろきもせず、狸寝入りで寝そべつてゐるんですもの。(略)こひしいひとの子を生み、育てる事が、私の道徳革命の完成なのでございます。【八】

この文からわかるように『斜陽』の〈革命〉は、かず子
が古い道徳を無視して、妻子のある男を愛する。また、その男の子供がほしくて、結局、産むことを意味する、かず子の愛は、既存の恋愛の固定の観念を覆して、道徳革命の完成をめざすという意味として使われたのである。従つて他の訳文のように、原文の〈革命〉を訳者の意味を、そのまま「혁명(革命)」と訳すの方がよいと考えられる。

・草

いつの世でも、僕ような謂わば生活力が弱くて、
缺陷のある草は、思想もクソも無いただおのづか

ら消滅するだけの運命のものなのかも知れませんが、【七】

・宋肅庚氏の場合

어는 세상에 서나 나와 같은 말하자면 생활력이 약하고
결함이 있는 백성은, 사상도 아무것도 없이 다만
스스로 소멸하는 것을 안 운명인지 모릅니다만、

(いつの世界でも、僕のような言わば生活力が弱くて、
欠陥のある民衆は思想も何にもないただ、おのずから消滅することを知っている運命かも知れません。)

・関内山氏の場合

어는 시대에 있어 서나 나 같은 풀 말하자면 생활력이
약하고 결함이 있는 풀은 사상이고 뭐고 아무 것도
없는 그저 저절로 소멸해 가는 운명을 지니 것이지도
모릅니다만、

(いつの時代においても私みたいな草、言わば生活力が弱くて、欠陥がある草は思想も何にもないただ、おのずから消滅していく運命を持っているのかも知れませんが、)

・權逸松氏の場合

어는 시대 거나 나와 같은 말하자면 생활력이 약하고
결함이 많은 풀은, 사상이고 나발이고 아무것도 없는
그저 저절로 소멸해 가야 할 운명을 지니 것이지도

모르겠읍니다만、

(いつの時代でも私のような謂わば生活力が弱くて欠陥が多い草は思想も何にもないただおのずから消滅していく運命をもっているのかもしれないが)

・イムヒチヨル氏の場合

어느 세상에서나 나와 같은 소위 생활력이 약하고 결함이 있는 풀은 사상도 개별도 없이 다만 스스로 소멸할 운명의 것뿐이지도 모릅니다만、

(いつの世でも私のような謂わば生活力が弱くて欠陥がある草は思想も何にもないただおのずから消滅する運命のだけかも知れませんが)

・許昊氏の場合

어느 시대이건 저처럼 이른바 생활력이 약하고 결함이 있는 풀은 사상이고 나발이고 없이 스스로 소멸될 운명을 지니고 있는지 모릅니다、

(いつの時代でも、僕のような謂わば生活力が弱くて、欠陥のある草は、思想もクソも無いただおのずから消滅される運命をもっているかも知れません。)

▼ 어느 세상에서도 나같은 말하자면 생활력없고 결함이 있는 풀은 사상도 아무것도 없이 다만 스스로 소멸해가는 운명이지 모릅니다만、

(いつの世でも私のような謂わば生活力が弱くて欠陥が

ある草は思想も何にもないただみずから消滅していく運命かも知れませんが)

宋肅庚氏は、原文の「草」を「백성(民衆)」と訳している。他の訳者は直訳して「풀(草)」と訳している。どうして宋肅庚氏だけ「民衆」と訳したのか。ここでの「草」は比喩で、植物の「草」ではなく、直治自身だと把握して「民衆」と訳したと考えられる。直治は自分の貴族という身分から離れて、民衆のところに入りたいと憧れるところがある。以下のである。

・それが、所謂民衆の友になり得る唯一の道だと思つたのです。【七】

・あの民衆の部屋にはひる入場券が得られないと思つてゐたんです。【七】

・民衆にとつて、僕はやはり、キザつたらしく乙なすました氣づまりの男でした【七】

この文から見られるように、直治は貴族ではなく、「民衆」として生きたかったのである。宋肅庚氏はこの部分を読み取り、「草」を直訳せず、「草」を「民衆」で意識したと考えられる。

(三) 誤訳された部分

誤訳は原文と意味が全く異なる訳をいう。

・おむすび

「おむすびが、どうしておいしいのだから、知ってるますか。あれはね、人間の指で握りしめて作るからですよ。」とおっしゃった事もある。【一】

・イムヒチヨル氏の場合

「초밥이 왜 맛있는지 아니? 그것은 사람의 손으로 주물라서 만들기 때문이란다。」라고 말씀하셨던 일일이 있었다.

（「お寿司がどうしておいしいのだから、知っているの? それはね、人間の手で弄って作るからだよ。」とおっしゃったことがある。）

・関丙山氏の場合

「주먹밥이 왜 맛있는지 아니 그건 사람 손가락으로 꼭 쥐어서 만드니까 맛이 나는 거야。」라고 말씀하신 일들도 있었다.

（「おむすびが、どうしておいしいのだから、知っているのか。それはね、人間の指で握りしめて作るからおいしいのよ。」とおっしゃったこともある。）

・權逸松氏の場合

「주먹밥이 왜 그리 맛이 있는 줄 아니? 그건

말이야. . . . 사람의 손가락으로 꼭 쥐어서 만들었기 때문이야。」라고 말씀하신 일들도 있었다.

（「おむすびが、どうしてそれほどおいしいのだから、知っている? それはね、. . . .人間の指で握りしめて作ったからだよ。」とおっしゃったこともある。）

・宋肅庚氏の場合

「주먹밥이 왜 맛있는지 알아요? 그건 인간의 손가락으로 쥐어서 만든 거니까 그런 거예요。」라고 하신 적도 있었다.

（「おむすびが、どうしておいしいのだから、知っている? それはね、人間の指で握りしめて作ったものだからよ。」とおっしゃったこともある。）

・許昊氏の場合

「주먹밥이 어째서 맛있는지 아니? 그건, 사람 손으로 줄라서 만들기 때문이야。」라고 말씀하신 적도 있었다.

（「おむすびが、どうしておいしいのだから、知っている。それはね、人間の手で握りしめて作るからよ。」とおっしゃったこともある。）

▼ 「주먹밥이 왜 맛있는지 알고 있니? 그건 말이야 인간의 손가락으로 쥐어서 만들기 때문이지」라고 말씀하신 적도 있었다.

（「おむすびが、どうしておいしいのだから、知っている

の？それはね、人間の指で握りしめて作るからだ。」とおっしゃったこともある。

イムヒチヨル氏は、「おむすび」を「초밥(お寿司)」と訳しているが、「おむすび」は韓国語でも存在したものであり、「주먹밥」という対応させる言葉がある。しかし、なぜ「초밥(お寿司)」と訳したのだろうか。それは「おむすび」を「お寿司」に勘違いしたのであるうか。もしくは訳者は日本の小説を顧慮し、人間の指で握りしめて作られたといえ、日本料理の「お寿司」だと考え、訳したのではないかと考えられる。「おむすび」は、握り固めた飯で、「お寿司」は、酢に漬けた魚肉を飯と共に、圧して酸味を生じさせたものである。この場合は、「おむすび」は、「주먹밥」で韓国語で訳せる。従って、他の訳のように、「おむすび」を韓国語の「주먹밥」で訳したほうがよいのである。

・來々軒 라이라이켄

・「わあ、ひでえ。趣味のわるい家だ。來々軒。
シウマイあります、と貼りふだしろよ。」それが私とはじめて顔を合わせた時の、直治の挨拶で

あった。【三】

・関内山氏の場合

「야, 이견 대단하구나. 취미가 나쁜 집인데. 어서 오십시오. 슈우마이 「シウマイ」 있습니다. 라고 간판을 써 붙이면 안성마춤이겠는걸.」 이것이 나하고 처음 얼굴 마주쳤을 때 나오지가 지껄인 인사 말이었다.

「やあ、これはすごいぞ。趣味のわるい家だ。いらっしやいませ。「シウマイ」あります、と看板を書いて貼ったらあつらえ向きだろう。」これが私とはじめて顔を合わせた時の、直治がしゃべった挨拶の言葉であった。」

・權逸松氏の場合

「야, 이견 지독한데, 취향이 나쁜 집이군. 어서 오십시오. 슈우마이 「シウマイ」 있습니다. 라고 써 붙이면 꼭 알맞겠는걸.」 이것이 나하고 얼굴을 마주쳤을 때의 나오지의 인사 말이었다.

「やあ、これはひでえ。趣向のわるい家だ。いらっしやいませ。「シウマイ」あります、と書いて貼ったらふさわしいよ。」これが私とはじめて顔を合わせた時の、直治の挨拶の言葉であった。」

・イムヒチヨル氏の場合

「야 지독하고 취미없는 집인데. 라이라이켄」라이라이

ケン」(来来軒)중국식만두 있습니다 라고
간판이라도 써붙이지” 그것이 나랑 얼얼함을 처음
마주쳤을 때 나오지가 한 인사였다.

(“야아, ひどい趣味のない家だ。「ライライケン」(来来軒) 中国式餃子あります、と看板でも書いて貼ろうよ。”それが私とはじめて顔を合わせた時の、直治が言った挨拶であった。)

・宋肅庚氏の場合

“지독한 악취미로 지은 집이군 라이라이켄「라이라이ケン」(来来軒)슈마이「シュウマイ」있음이라는 딱지라도 붙이지.” 이것이 나와 처음으로 얼얼함을 마주친 나오지의 인사였다.

(“ひどい悪趣味で作られた家だ。「ライライケン」(来来軒)「シュウマイ」あります、という張り紙でも貼ろうよ。”これが私とはじめて顔を合わせた時の、直治の挨拶であった。)

・許吳氏の場合

“와야! 지독히도 멋대가리 없는 집이로군 ㄹ ㄹ 중국식 만두, 라고 간판이라도 내걸지 그래?” 그것이 나와 처음으로 얼얼함을 마주쳤을 때, 나오지가 한 인사였다.

(“わあ、ひどくて味もそっけない家だ。ㄹ ㄹ 中

国式餃子と看板でも掲げたらどう。”それが私とはじめて合わせた時の、直治の挨拶であった。)

▼와 신희근 쿼미가 나쁜 집이군 라이라이켄(기계의 이름 — 역주 슈마이 「シュウマイ」 중국어 조류와 돼지고기를 기계로 저민 고리와 야채를 얹게 썰어 섞어 소금 후추 설탕으로 맛을 낸 것을 밀가루의 피로 싸서 찜중국요리 — 역주)라고 벽보를 붙이지. 그것이 나와 처음으로 마주쳤을 때의 나오지의 인사였다.

(“わあ、ひでえ。趣味のわるい家だ。「ライライケン」(店の名前 — 訳注)「シュウマイ」(中国語 鳥・豚などの挽肉と野菜のみじん切りをませ、塩・胡椒・砂糖で味をつけたものを小麦粉の皮で包み、蒸した中華料理 — 注)あります、と貼りふだを貼ろうよ。”それが私とはじめて顔を合わせた時の、直治の挨拶であった。)

「来来軒」の部分を関丙山氏、權逸松氏は「어서 오십시오(いらっしゃいませ。)」と訳し、また、イムヒ치ョル氏、宋肅庚氏は「라이라이켄「라이라이ケン」と音訳し、許吳氏はその部分を省略してしまった。どうして「来来軒」の一つの言葉で訳者よって多様な訳ができたのか。「来来軒」の意味は店の名前で、辞書では載せていないが、中華料理の屋号としてはよく見られるものである。この言葉は何の意味も持っていない。従って、関丙山氏はその状況に

合わせて、「이서 오십시오(いらっしやいませ。)」と訳したと考えられる。権逸松氏の訳文が、誤訳の関丙山氏の訳文と全く同じなのは、これも前も言ったように前の訳文を見た可能性が考えられる。イムヒチヨル氏と宋肅庚氏が「라이라이켄」「ライライケン」と音訳したのは、「来々軒」が固有名詞であることに気付いて、音訳したと思われる。許吳氏が省略した理由としては「来々軒」の言葉の知識がなかったものだと思うれる。「来々軒」のような言葉は日本の店ではよくあるが、韓国には見られない。このように固有名詞を様々に訳されるのは、訳者の日本語の知識だけではなく、日本の文化的な側面に対する知識を欠いているのではないかと考えられる。

(四) 音訳された場合

音訳は外国語を発音そのままに、自国語に移すという訳である。

・お能

一日、お能からの歸り、自動車を銀座でかへして、それからひとりで歩いて京橋のカヤノアパートを

訪ねた。【三】

・関丙山氏の場合

하루는 노오(能)「ノウ」를 구경하고, 돌아오는길에 긴자(銀座)에서 자동차를 보내고, 거기서부터 혼자 걸어 교오마시의 가야노 아파아트를 찾아 갔다.

(一日、お能「ノウ」を見てからの歸る途中に、銀座で自動車をかえして、それからひとりで歩いて京橋のカヤノアパートを訪ねていった。)

・権逸松氏の場合

하루는 노오(能) (일본 고유어 음하크 — 연주) 구경을 하고 돌아오는 길에 자동차를 긴자에서 돌려 보내고 거기서부터 혼자 걸어서 교오마시의 카야노 아파아트를 찾았다.

(一日、「ノウ」(能) (日本固有の音楽劇 — 訳注) を見てからの歸る途中に、自動車を銀座でかえして、そこからひとりで歩いて京橋のカヤノアパートを訪ねた。)

・イムヒチヨル氏の場合

하루는 극장에서 귀가하는 도중에 자동차를 긴자에서 돌려 보내고 혼자서 교마시에 있는 가야노 아파아트를 찾아갔다.

(一日、劇場からの帰る途中に、自動車を銀座でかえして、それからひとりで歩いて京橋にあるカヤノアパートを訪ねていった。)

・宋肅庚氏の場合

하루는 노가쿠(能楽) 구경에서 돌아오는 길에 자동차는 긴차에서 돌려 보내고 혼자 걸어서 교바시 가야노 아파트를 찾았다.

(一日、「ノウガク」(能楽)を見てから帰る途中に、自動車を銀座でかえして、それからひとりで歩いて京橋のカヤノアパートを訪ねた。)

・許昊氏の場合

하루는 노(역자주: 能・일본의 전통적인 가면극)를 보고 돌아오는 도중에, 자동차를 긴차에서 돌려 보내고 혼자 걸어서 교바시의 가야노 아파트를 방문하였다.

(一日、お能(訳者注: 能・日本の伝統的な仮面劇)を見て帰る途中に、自動車を銀座でかえして、ひとりで歩いて京橋のカヤノアパートを訪ねた。)

▼하루는 노오(能) 「ノウ」(일본 고전예능의 일종으로 대표적인 가면극—역주) 구경하고, 돌아오는 길에 긴차(銀座)에서 자동차를 보내고, 거기서부터 혼자 걸어서 교바시의 가야노 아파트를 찾았다.

(一日、「ノウ」(能)(日本の古典芸能の一種で、代表

的な仮面劇。——訳注)を見てから帰る途中に、自動車を銀座でかえして、それからひとりで歩いて京橋のカヤノアパートを訪ねた。)

関丙山氏は原文の「お能」を音訳している。なぜ関丙山氏は音訳をしたのか。ここから考えられるのは、日本語をそのまま音訳したのは、日本との歴史的な関係が考えられる。韓国では日本語を発音のままで音訳しても、通用した時期もあったのである。発音のまま訳されたのが関丙山氏である。従って、関丙山氏が訳した当時は、読者が植民地時代に日本語を習った世代だったからである。権逸松氏と許昊氏は、音訳をしてから簡単に注をつけた。イムヒチョル氏は、その部分を「劇場」と訳したが、これは少し意味が変わるのである。宋肅庚氏は、「노가쿠」「ノウガク」(能楽)」と音訳した。しかし音訳だけではわかりにくい。このように、「お能」という一つの日本の文化の文化を訳すのに、訳者によって訳文が違っている。訳者たちは、日本語はできたとしても、日本文化についてはどうであつたろうか。文化的な面を訳す場合には注意を要する。

「お能」は韓国には存在しない。従って、訳しにくいのである。日本の伝統芸能としては「お能」「歌舞伎」などがある。それに対して韓国では、「판소리」(朝鮮王朝の英祖時代以来、庶民の間で唱劇につけて歌われた謡)ま

た、チャンゴ（鼓の一種）、ケンガリ（鉦）、プク（太鼓）、チン（銅鑼）という四つの打楽器の打音を、組み合わせで作っていく、音楽の「サムルノリ」などが挙げられる。このように、芸能に対しても差異が見られる。たとえば、韓国の「パンソリ」、「サムルノリ」を、日本語で訳す時にも韓国語の発音そのままで音訳した上で、説明する方法しかないだろう。

「お能」は韓国にはないので、それにあたる言葉はない。つまり、音訳してから注をつけるべきである。「お能」は、「日本の古典芸能の一種で、代表的な仮面劇」ぐらゐの説明は要求される。

・白舂に夏羽織

さうして、お晝すこし過ぎ、白舂に夏羽織をお召しになつて診察にいらした。【五】

・權逸松氏の場合

정오 조금 지나서 흰카스리[カスリ] (옷으로 살짝 스친 것 같은 작은 무늬가 많이 있는 일복을 감—역주)의 여름하오리[ハオリ]를 걸치고 왕진을 오셨다.

(X) X, お晝すこし過ぎ、白「カスリ」(所どころかすっ

たように小さい模様がたくさんある日本生地——訳注)に夏「ハオリ」をお召しになつて診察にいらした。

・関丙山氏の場合

그리고 정오가 조금 지나 흰 가스리[舂]「カスリ」옷에 여름 하오리[ハオリ] (羽織)를 걸치고 진찰을 하러 오셨다.

(そして、お晝すこし過ぎて、白「カスリ」(舂)服に夏「ハオリ」(羽織)をお召しになつて診察にいらした。) イムヒチヨル氏の場合

점심 때가 좀 지나서 흰 하카마[ハカマ]에 여름 하오리[ハオリ]를 입고 진찰하러 오셨다.

(X) X, お晝すこし過ぎて、白「ハカマ」に夏「ハオリ」をお召しになつて診察にいらした。)

・宋肅庚氏の場合

그리고 점심때가 지나서 흰 가스리[カスリ]의 여름 하오리[ハオリ]를 입고 진찰하러 오셨다.

(そして、お晝すこし過ぎて、白「カスリ」に夏「ハオリ」を着て診察にいらした。)

・許昊氏の場合

그리고 점심때가 조금 지나, 흰옷에 여름 하오리[ハオリ]를 걸쳐 입은 차림으로 왕진을 오셨다.

(そして、お晝すこし過ぎ、白い服に夏「ハオリ」を

お召しになった姿で往診にいらした。

▼ 그리고 점심때가 조금 지나, 흰 카스리(カスリ) (絣) (웃으로 삼작 스친 것 같은 잔 무늬가 있는 천) (역주) 에 여름 하오리(ハオリ) (일복옷의 위에 입는 짧은 겹옷)로서 여름에 착용한다. — (역주) 를 읽으시고 진찰하러 오셨다.

(そして、お昼すこし過ぎて、白「カスリ」(絣)(所どころかすったように模様を織り出した織物——訳注)に夏「ハオリ」(和服の上に着る短い外衣として、夏に着用する。——訳注)をお召しになって診察にいらした。)

権逸松氏は原文の「白絣」を「카스리」「カスリ」と、音訳して注をつけたが、「夏羽織」の部分では、「하오리」「ハオリ」を単に音訳している。関丙山氏と宋肅庚氏は、全部音訳して、イムヒチョル氏は、「絣」を「하카마」「ハカマ」と音訳して、「하오리」「ハオリ」も音訳した。許昊氏は、「絣」は「옷(服)」と訳し、「羽織」は音訳した。殆どの訳文は音訳だけである。訳者は「白絣」と「羽織」という、日本の衣装について、あまり詳しくなかったと考えられる。従って、説明するのが難しいのである。たとえば、ハンボク(韓服)のデニム(結び紐として男性のバジの足首を結ぶもの)について訳すのに、韓国の韓服について知識が無かったら、デニムが女性用か男性用かの、

区分さえできないだろう。このように「絣」とか「夏羽織」についての訳は、他の訳文より、かなり注意が必要である。「絣」は、所どころかすったように模様を織り出した織物で、「羽織」は、日本服の上に着る短い外衣である。「羽織」は「夏羽織」と「冬羽織」と分けている。「夏羽織」は、言葉そのまま夏季に着用する一種の羽織で、「冬羽織」は、冬季に着用する袷羽織である。この場合は、「羽織」の中でも「夏羽織」の部分を説明すべきであった。このように、訳者が日本の衣装についての知識が足りなくて、うまく説明ができないので、音訳した場合もあるだろうし、また、訳程度でわかると判断した場合もあるかもしれない。しかし、注をつけると読者にとってわかりやすいのである。

六 おわりに

以上、訳者によって〈省略〉、〈意訳〉、〈誤訳〉、〈音訳〉された部分を取り上げて考察した。

〈省略〉の場合は、文化差によって韓国にはなくて、日本だけにあるものが〈省略〉された。〈省略〉するのは原文を毀損する恐れと共に、読者は日本文化に触れる機会を失ってしまう問題が発生する。

〈意訳〉の場合は、その言葉にこだわらず、訳者が原文の読み取りや全体的な意味を考え訳した。訳文が全く違う

とは言えないけれども、少し異なる可能性が考えられる。

《意訳》の部分においては、いつでも訳者は客観的な立場を守りながら正確で、滑らかな訳を志さなければならぬ。

《誤訳》の場合は、原文の意味と全く異なる訳文が見られた。この部分は、訳者が日本文化の知識を欠いているか、もしくは、調べないまま訳したのであると考えられる。従って、訳者は注意しながら訳すべきである。

《音訳》の場合は、日本と韓国の文化差によって、韓国語に対応する言葉がない時になされた。その場合は音訳だけではなく、必ず注をつけるべきである。

以上『斜陽』の作品の五人の訳本を取り上げ、訳者によって《省略》、《意訳》、《誤訳》、また《音訳》された場合の問題を考えてみた。この問題点を解決するためにその対策として、日本文学作品の翻訳基準が四つ考えられる。

(1) 《省略》の問題に関して。訳者は原文を忠実に訳して削除せず、訳すべきである。読者がその部分を最大限に読めるように配慮しなければならない。

(2) 《意訳》の問題に関して。訳者の《意訳》は原文の意味が変わらない範囲で許容ができる。

(3) 《誤訳》の問題に関して。訳者の正確な読み取りと文化の知識が必要である。

(4) 《音訳》の問題に関して。日本と韓国の文化差異を

克服するために日本語の発音をそのまま移してもよいが、必ず注をつけるべきである。また、韓国語で対応させる言葉がある場合は《音訳》は避ける。

翻訳というのは文化の繋がりがあある。韓国と日本は地理的に、外国と言えないくらい近い。しかし、お互いの文化については、実は思っているほどは詳しくない。それはどちらの責任でもない。単にお互いの関心の度合いであると言える。同じような文化が優れた文化であって、異なった文化は劣っているなどということは考えるべきではない。文化を知らせる先駆者として、訳者が先に立たなければならぬ。訳者にとってはそれを実践する機会である。日本文化を訳す時にお互いの文化の交流が活発に行われるように、訳者の役割はここから始まってよいのではないかと考えられる。

注

(1) 李政洙「日本語『と思う』の韓国語翻訳に関する研究」(啓明大学校国際大学院亜細亜学科日本語通・翻訳専攻 一九九七、六)

(2) 『講座日本語と日本語教育7』(明治書院、二〇〇一)

きれいだ			
澄んでいる	美しい	清潔だ	
깨끗하다	아름답다	예쁘다	맑다

- (3) 崔清子「翻訳で発生する難訳性に対する研究——特に領域を中心に——」(檀国大学校大学院 英語英文学科英語學專攻一九九二、八)
- (4) 『世界の中の三島由紀夫』(勉誠出版、二〇〇〇・三)『漢陽』
- (5) 『漢陽日本文學』(一九九七、七号)
- (6) 『斜陽』(カラー版) 世界の文學大全集8 (関丙山、ドンファ出版ゴンシャ、一九七〇)
- (7) 『斜陽・三星版世界文學全集49』(權逸松、三省出版社、一九八四)
- (8) 『斜陽』(イムヒチヨル、シムジ、一九八五)
- (9) 『斜陽』(宋肅庚、ウル文化社、一九九五)
- (10) 『人間失格』(許昊、熊進出版社、一九九五)
- (11) 『太宰治全集』第十卷、(筑摩書房、一九九九)
- (12) 『ハングル大辞典』(民衆書林、一九八三)
- (13) 『日韓文化論』(學生社、一九九四)
- (14) 『日本國語大辞典』第八卷 (一九七四、小学館)
- (15) 『東亜日報』(一九七〇・四・二三付)
- 『朝鮮日報』(一九七〇・四・二三付) には以下のように載せていた。

・安逸한 思考方式에 一鍼

22일 중앙청에서 열린 가문대책을 위한 地方長官會議에서朴正熙대통령은 일선 공무원이나 농민들이 아직도安逸한 생각을 버리지 못하고 있다고 주의를 환기.朴대통령은『地方출장때 헬리콥터로 지상을 내려다보면서 가문의 들어 보리가 시들어가는데도 발뺌치에 있는 저수지나 官井의 물을 내버려 두채 이용하는 모습을 찾아볼수 없었다.』말하면서『가문대책은 벼농사를 위한 것만이아니나만큼 일선 공무원이 솔직하여 농민들과같이 새벽에 일어나 릴레이식으로 보리밭에 물을 주는기능을 만들어야한다.』고 당부.朴대통령은 또『농민들은 알뜰한 내고장을 만들기위해 부지런해야 한다.』면서『예비군이 이에 앞장서는것도 한가지 방법』이라고 일러 주었다.

(安逸한思考方式に一鍼)

22日中央庁で開かれた日照りの対策のための地方長官會議で、朴正熙大統領は、一線公務員と農民たちがまだ安逸な考えを捨てられないでいると注意を喚起。朴大統領は、『地方出張の時ヘリコプターで、地上を見下ろしながら日照りで麦が枯れているのに、畑の付近にある貯水池と官井の水をほっといたままで、利用する姿は見られなかった。』と述べ、『日照りの対策は稲作のためだけのことではないほど、一線公務員が率先して、農民たちと一緒に夜明けに起きて、リレー式に麦の畑に水をやる氣風を作らなければならない。』と命じた。朴大統領はまた、『農民たちはつましく暮らす地元を作るため勉めるべきである。』まず『予備軍がこれに先立つのも一つの方法』であると指示した。

